

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100477		
法人名	社会福祉法人 ふるさと自然村		
事業所名	グループホーム やす		
所在地	高知県香南市夜須町坪井804-19		
自己評価作成日	平成28年9月30日	評価結果 市町村受理日	平成29年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは、入居者様の心身が落ち着き、安心して過ごせるように、日頃から健康管理・掃除・洗濯等、健康・衛生環境の整備に努め、職員も共に生活する者として馴染みの関係を築くよう心がけています。また、散歩、地元商店での買い物やドライブに行ったり、地元小学校の運動会を見学したり、小学生との交流会を催したり、町民集会所を定期的に訪問したり、地域の中での暮らしを大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JiryosyoCd=3972100477-008&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成28年10月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道沿いに立地しているが、交通量の少ない事業所の裏道を通って、近くの「道の駅」に行くことができ、散歩で気分転換を図っている。
管理者は利用者が安心して過ごせる環境を作るため、職員と話し合いながら自分たちの言動を振り返り、利用者への適切な接遇に努めている。近隣に民家が少なく高齢化も進んでいるが、毎週木曜日に地域のボランティアが集会所で「集いの場」を設け、希望する利用者が参加して歌や習字などを楽しみ、地域住民と交流したり、知人と出会っている。また、毎年近くの小学生が来訪し、一緒に昔の遊びをするなど有意義な時間を過ごしている。

運営面では、地域包括支援センター職員と、利用者の入退居等に関して密接に連携を取っており、また母体の医療法人と利用者の重度化や看取りに対応できる体制をつくっている。職員は利用者が自由に過ごし、一人一人の個性を生かして楽しく生活することを目指して支援に取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:すずらん

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が話し合って理念を作り、ホールの見える所に掲示している。管理者及び職員が、申し送り時や月間反省会、職員ミーティング時等に理念の確認の基にケアの向上に取り組んでいる。	管理者と職員が協力して作成した「心身がおちつき安心して過ごせる支援」と「地域とのつながり」を理念とし、職員は利用者への接し方や言葉遣い等に気を配り、利用者の自主性を尊重し、思いに寄り添うケアが出来ているか、申し送りやミーティング等で確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた際は近隣の方々と挨拶を交わしている。馴染みの美容室や理容室に来ていただいたり、近隣の美容室へ行ったりしている。地域の行事に参加したり、地元小学校の運動会を見学したり、小学生との交流会を催したり、町内の町民集会所を定期的に訪問したり、地域の方々との交流に努めている。市の総合防災訓練に地域の方々と共に参加している。	運営推進会議に参加する地区の民生委員から、地区の情報を得ている。毎週木曜日にボランティアによる習字や歌、工作等を行う「集い」が地区集会所で開催されており、希望する利用者が毎週出かけて地域住民と交流している。毎年小学5・6年生の訪問もあり、一緒に遊んで交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の研修報告を行ったり、定期的に訪問している町民集会所で認知症に関する話をしたりしている。見学者やご家族の相談があれば受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、ホームの活動内容を報告して、質問や意見を受け、サービスの向上に努めている。評価で明らかになった課題についても会議で報告し、意見をいただくようにしている。	会議は2カ月毎に開催し、事業所の状況や活動報告を行い、参加者と意見を交換している。ただし、評価に伴う目標達成計画については、議題としての話し合いに至っておらず、また会議への地域代表の参加が少ない。議事録は事業所で閲覧できるようにしている。	目標達成計画を議題とし、事業所の課題を参加者に伝え、解決への協力や助言を得ることと、その後の取り組み経過等を記録し会議で報告することを期待したい。併せて議事録を不参加の家族に送付し、広く周知を図ることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは、運営推進会議や更新認定申請時、事故報告時等に、運営面や現場の実情等を伝え、相談、指導を受けている。	運営推進会議に参加する市の担当職員に、運営に関する相談を行い、助言を受けている。また、退居者や地域包括支援センターが把握する待機者についてFAXで情報交換し、連絡を密に取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての外部研修や法人内の研修に参加したり、事業所内での研修会を実施し、全職員が正しい知識を持つよう指導し、実際のケアにつなげるよう努めている。	身体拘束については、法人内外の研修を受けて全職員が正しく理解しているが、年に数回はケアを振り返り、確認に努めている。法人内の定期的な勉強会にも職員が参加し、ユニットで内容を共有して拘束しないケアの実践に生かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会や法人内の研修に参加したり、事業所内でも研修会を実施し、虐待防止に関する知識を高め、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおり、職員間でパンフレットを回覧したり、また随時説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の相談時に困っていること、疑問に思っていることなどを聞き、契約時には十分説明をし、疑問な点はないか確認し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情相談窓口と玄関入り口に設置している意見箱について説明し、また、日々の生活の中で意見や要望が聞けるように関係作りに努めている。意見要望のあった時は職員間で話し合い、ご家族等に説明し、サービスの向上に反映させている。	家族会は行っていない。以前は家族会を開催していたが、家族の参加が少なく会として組織していない。家族の意見や要望は面会時や電話などの機会に聞いて、職員間で話し合い運営に反映させている。	家族は世話になっている思いから、本音が言いにくいことがあるので、事業所から家族会の意義を伝え、家族同士のつながりを大切に少人数からでも組織化につなげ、家族だけで話し合う時間を設けていくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員ミーティング時に、意見提案等を聞く機会を設けている。また必要があれば随時、職員の意見を聞くようにし、意見をサービス向上に反映させている。	毎月全職員が出席して職員会を開催している。法人本部からの連絡事項を伝達し、職員の意見を聞いている。職員からは、庭木の剪定鋏の購入や誕生日会でデコレーションケーキを用意したい等の、必要物品や行事等に関する要望・提案があり、それらに答えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って仕事ができるように人事考課を行い、法人としてキャリアアップシステムを導入している。また研修の機会も豊富に与え、資格取得に向け支援している。日常の関わりの中で精神面の相談にも乗っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、法人内の研修の予定情報を豊富に提供し、研修への参加を促している。また、研修報告も行なっている。職場内においてもリーダー職員から新入職員へのOJTを随時行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の地域密着型サービス事業者情報交換会が年間数回開催されており、参加している。また他の施設の訪問時や市の研修会参加時に交流の機会を持ち、他の施設での取り組みを学び、サービス向上のために取り入れるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時に困っている事や、心身の状態などを聞くようにし、ご本人の思いを受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時に、ご家族の困っている事、要望、不安に思うことを聞き、ご家族との信頼関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、その時の状況や身体の状態を見極め、適したサービスが受けられるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理作りを一緒にしたり、掃除を手伝ってもらったり、庭の畑で野菜や花を作ったり、洗濯物干しや洗濯物たたみを一緒にしながら、ご本人がこれまで経験してきた事柄などを教えていただく機会を持ち、職員と共に生活していく関係をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や電話連絡時に近況報告をしたり、毎月郵送している事業所便りに近況を書き添えたり、行事への参加や運営推進会議への出席を依頼したりしている。病院受診時は、ご家族にも協力をお願いしている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>訪問美容、訪問理容として近隣の美容室や理容店に来てもらったり、以前住んでいた場所を訪問したり、また町民集会所で旧知の人と再会したりなど、人間関係や場所との関係が継続できるように配慮している。</p>	<p>ドライブの機会を利用し自宅周辺や地域へ立ち寄り、在宅時の思い出話をしたり、事業所近くの集会所に出かけて地域住民と交流し、知人と再会するなど、関係が途切れないよう支援している。近くの理美容室が定期的に来所し、新たな関係ができています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>話し合える方同士で同席にするなど、入居者同士の関係性によって配席を工夫したり、職員が話のきっかけ作りをしたりしている。一人である方に対しては、職員が寄り添い、孤独を感じさせないように努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後もご家族の相談に乗ったり、入院時はお見舞いに行ったり、電話等で状態を聞くようにしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居当初にご本人またはご家族より様々な話を伺い、希望や意向を把握している。また日々の生活の中でも、ご本人の要望や希望の把握に努めている。意思疎通の困難な方に対しては、表情や言動により把握するようにし、またご家族からも情報を得るようにしている。</p>	<p>入居時に本人や家族・関係者から思いや暮らしの意向を聞き、入居後も日々の利用者の言動や行動から趣味や意向を把握し、情報を記録して職員で共有している。意思疎通の困難な利用者には思い等を簡単に「はい・いいえ」で答えられる工夫をしたり、表情等から意向の把握に努めている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居相談時や入居時に生活歴を聞いている。入居後も生活の中で情報収集していくように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活のすべての動作や様々な家事作業などから、心身の状態に応じて、できることを見極めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしく暮らせるように、ご本人やご家族の意向を聞き、計画作成担当者、介護職員が話し合い、計画作成を行なっている。また退院後などの状態の変化に応じて見直しもしている。毎日ケア提供状況を表に記録し、月ごとにモニタリングを行い、次回の介護計画に反映させている。	各ユニットで毎日の支援内容をチェック表に記載し、毎月、計画作成者と担当職員でモニタリングしている。家族の意向も聞いて、3カ月毎に職員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。利用者の退院時や、ADLに変化があるときにはその都度計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいて日々のケアを実践し、その結果や気づきを記録し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月2回の往診を提供できる体制を取っている。また、ご家族の事情に応じて通院介助や買い物の付き添い、自宅への外出の援助など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の協力を得て運動会を見学したり、地元の美容室、理容店に訪問美容、訪問理容として来てもらったり、行事の時にはボランティアに協力してもらったりしている。民生委員や町内住民の方より、地域の情報を提供してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医や、希望する医療機関を利用してもらっている。月2回の往診も受けられるようになっており、また協力医療機関への受診の支援もしている。	本人や家族の希望により、かかりつけ医を決めている。入居前からのかかりつけ医への受診は、基本的に家族対応としており、必要情報を家族を通じ提供している。協力医は月2回の訪問診療を行い、専門医への受診が必要であれば職員が対応している。それぞれの受診結果は、口頭や記録で家族と職員が相互に共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診を受けている方には、協力医療機関の看護師が健康状態に応じて速やかな支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院に情報提供している。また、病院の看護師、相談員との情報交換を行い、早期退院に向けて相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重症化した場合や看取りについての説明をし、入居後は身体状況の変化に応じ、ご家族と話し合うようにしている。	入居時に、重度化した場合における対応や看取りに係る指針を、家族等に説明している。重度化や看取りの状態になったときは、医師から説明をして家族の意向を聞き、事業所で対応できることと出来ないことを説明し、看取りも含め家族の思いに寄り添った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については内部、外部研修にて学習している。平成26年6月には普通救命講習を全職員が受講した。また、緊急対応マニュアルを作成し、全職員に周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防の協力により実施する消防訓練や、自主的な防災訓練を実施している。地域の協力体制については町内住民の方々に協力を呼びかけている。市の総合防災訓練に地域の方々と共に参加している。	年2回消防署の協力を得た防火訓練のほか、自主防災訓練も行っている。近隣住民は高齢化して、訓練に参加が望めない状況にある。非常用の食料品や水等は3日分を備蓄している。事業所は堤防を隔てて海に近く、津波のときは山側の避難場所に避難することになっている。	自主防災組織との協力体制を検討するほか、自主避難に備えて日頃から利用者の体力づくりに取り組むことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者それぞれに合った声かけや対応によって、安心して生活できるよう配慮している。法人内の勉強会で定期的に学習し、また接遇に関する職場内研修を随時実施している。	職員は内部研修により、プライバシーの大切さを理解しており、特に排泄誘導は各利用者の状態に配慮して声をかけ、羞恥心を感じさせない対応をしている。接遇研修も受けてケアの質を高め、利用者一人一人を尊重した支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を把握し、生活の中で自分で決定できる場面を持てるようにしている。入居者一人ひとりに合わせた言葉がけをし、選択肢を示し、意思表示しやすいうように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で入居者のペースを把握し、その方のペースを大切に、また希望に添えるように個別対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみが整えられるように見守りし、行事や外出時はお化粧を楽しんでもらう等の支援をしている。訪問美容にも来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを取り入れるように努め、会話の中で浮かんだ思い出の食材を使ったり、食欲が増すように支援している。調理はできる範囲で参加してもらっている。職員や入居者様同士と一緒に楽しく食事できるように席の配置に配慮し、また後片付けやテーブル拭きなどをしてもらい、手伝ってもらった時は感謝の言葉を伝えている。	食材は週1回業者に発注・配達してもらい、メニューは当日の調理担当職員が、利用者の好みなどに合わせて作成している。利用者は食材の下ごしらえや食事の準備、後片付けなど、できる範囲で手伝っている。職員は利用者と同じ物を一緒に食べ、誕生日会等の行事では仕出しや弁当を注文し変化を持たせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や義歯の状態により食物の形態を考慮している。咀嚼、嚥下状態の悪い方にはミキサー食等に対応している。水分は1日に標準で1,300~1,500ml摂れるように気をつけ、食事、水分の摂取量を毎食記録している。また、関連施設の管理栄養士に指導を受けることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄は、一人一人の力に応じて見守りや介助を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツや尿取りパッドを使用しているも、一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導も個々の状況に合わせて行い、またリハビリパンツから布パンツへの移行など自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表から利用者の排泄パターンを把握し、時間に留意してトイレへ誘導している。各利用者に適した排泄用品を選び、自立に向けた支援により、紙パンツから布パンツに移行できた利用者もいる。夜間はポータブルトイレを使用する利用者があるが、オムツ使用の利用者はいない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操で活動量を高めたり、食物繊維の多い物やヨーグルトの提供や、適正な水分摂取で便秘予防に取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の要望に合わせて入浴してもらっている。入浴剤を使用したり、季節により「ゆず湯」などを楽しんでもらっている。足浴も随時行なっている。	入浴時間は職員の見守り体制が十分な午後の時間にしているが、希望に沿って午前でも入浴できる。入浴拒否がある利用者には、拒否の理由を検討し、同性介助や利用者の気分に合わせて工夫をして、少なくとも週2回は入浴できるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状態に合わせて、昼寝の時間を取ったりしている。また、日中は体操や外出、レクリエーションなどで活動的に過ごし、夜間安眠できるように配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の説明書をいつでも閲覧し、確認できるようにしている。薬の変更時には、その都度情報を更新している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じて家事の分担をしてもらい、また花の手入れをしたり、庭仕事をもらうなど、個々に応じた張り合いのある生活になるよう配慮している。散歩やドライブを行ない、気分転換ができるように努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物、自宅や自宅近くの馴染みの場所、町内の町民集会所等、希望に応じて外出している。状況に合わせて複数で外出したり、個別に外出したりしている。	交通量の少ない事業所の裏道を日常的な散歩コースにして、天候や時間を見計らい、車椅子の利用者も一緒に外出している。桜や紫陽花、コスモスなど季節の花見には弁当やおやつを持参している。毎週木曜日の地域ボランティアの催しに集会所に出かけたり、買い物や自宅近くへのドライブ等で気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金制度があり、ご家族の同意を得て管理している。ご本人の希望時は自由に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはご家族やご親戚の方、また知人の方などと電話で話せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に花を植えたり、玄関やホールには季節の風物の飾り付けをしたり、生活に潤いを与える生花や置物などを飾るようにしている。室内の照明に配慮し、居心地良く過ごせる空間作りをしている。館内には木を多用し、装飾をベージュ色に統一し、落ち着ける環境を提供している。	共用空間は広く、畳のスペースやソファがあり、利用者は思い思いの場所で過ごしている。居間は窓が広く明るい陽射しが差し込み、ベランダや庭に出て花木を見たり、手入れを楽しむことが出来る。室内には、鉢植えや季節の生花、折り鶴などが飾られ、ゆったりと過ごせる空間にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの隅にソファや椅子を置いて、一人で過ごせるようにしたり、また気の合った方同士が過ごせるようにも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、机や椅子、家族の写真や装飾品等を持って来ていただき、居室内を違和感のないように工夫し、安心して過ごせるように努めている。	居室前にはそれぞれ花の飾り物があり、自室の目印になっている。居室から窓を開けて庭に出ることができ、開放的な部屋にしている。居室にはテーブルや仏壇・家族写真等が持ち込まれ、家族の協力で居心地よく暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「ここはトイレです」と大きな張り紙をしたり、居室入り口には表札をつける等工夫し、認知力、理解力に応じた対応をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

ユニット名: ゆり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が話し合っって理念を作り、ホールの見える所に掲示している。管理者及び職員が、申し送り時や月間反省会、職員ミーティング時等に理念の確認の基にケアの向上に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた際は近隣の方々と挨拶を交わしている。馴染みの美容室や理容室に来ていただいたり、近隣の美容室へ行ったりしている。地域の行事に参加したり、地元小学校の運動会を見学したり、小学生との交流会を催したり、町内の町民集会所を定期的に訪問したり、地域の方々との交流に努めている。市の総合防災訓練に地域の方々と共に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の研修報告を行ったり、定期的に訪問している町民集会所で認知症に関する話をしたりしている。見学者やご家族の相談があれば受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、ホームの活動内容を報告して、質問や意見を受け、サービスの向上に努めている。評価で明らかになった課題についても会議で報告し、意見をいただくようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、運営推進会議や更新認定申請時、事故報告時等に、運営面や現場の実情等を伝え、相談、指導を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての外部研修や法人内の研修に参加したり、事業所内での研修会を実施し、全職員が正しい知識を持つよう指導し、実際のケアにつなげるよう努めている。		

7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部の研修会や法人内の研修に参加したり、事業所内でも研修会を実施し、虐待防止に関する知識を高め、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度を利用されている方がおり、職員間でパンフレットを回覧したり、また随時説明をしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前の相談時に困っていること、疑問に思っていることなどを聞き、契約時には十分説明をし、疑問な点はないか確認し、同意を得ている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に苦情相談窓口と玄関入り口に設置している意見箱について説明し、また、日々の生活の中で意見や要望が聞けるように関係作りに努めている。意見要望のあった時は職員間で話し合い、ご家族等に説明し、サービスの向上に反映させている。</p>		
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の職員ミーティング時に、意見提案等を聞く機会を設けている。また必要があれば随時、職員の意見を聞くようにし、意見をサービス向上に反映させている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員が向上心を持って仕事ができるように人事考課を行い、法人としてキャリアアップシステムを導入している。また研修の機会も豊富に与え、資格取得に向け支援している。日常の関わりの中で精神面の相談にも乗っている。</p>		

13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部、法人内の研修の予定情報を豊富に提供し、研修への参加を促している。また、研修報告も行なっている。職場内においてもリーダー職員から新入職員へのOJTを随時行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市主催の地域密着型サービス事業者情報交換会が年間数回開催されており、参加している。また、他の施設の訪問時や市の研修会参加時に交流の機会を持ち、他の施設での取り組みを学び、サービス向上のために取り入れるようにしている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面接時に困っている事や、心身の状態などを聞くようにし、ご本人の思いを受け止めるように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の相談時に、ご家族の困っている事、要望、不安に思うことを聞き、ご家族との信頼関係が築けるよう努力している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時、その時の状況や身体の状態を見極め、適したサービスが受けられるように対応している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>料理作りを一緒にしたり、掃除を手伝ってもらったり、庭の畑で野菜や花を作ったり、洗濯物干しや洗濯物たたみを一緒にしながら、ご本人がこれまで経験してきた事柄などを教えていただく機会を持ち、職員と共に生活していく関係をつくっている。</p>		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や電話連絡時に近況報告をしたり、毎月郵送している事業所便りに近況を書き添えたり、行事への参加や運営推進会議への出席を依頼したりしている。病院受診時にご家族にも協力をお願いしている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>訪問美容、訪問理容として近隣の美容室や理容店に来てもらったり、以前住んでいた場所を訪問したり、また町民集会所で旧知の人と再会したりなど、人間関係や場所との関係が継続できるように配慮している。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>話し合える方同士で同席にするなど、入居者同士の関係性によって配席を工夫したり、職員が話のきっかけ作りをしたりしている。一人である方に対しては、職員が寄り添い、孤独を感じさせないように努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後もご家族の相談に乗ったり、入院時はお見舞いに行ったり、電話等で状態を聞くようになっている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居当初に、ご本人またはご家族より様々な話を伺い、希望や意向を把握している。また日々の生活の中でも、ご本人の要望や希望の把握に努めている。意思疎通の困難な方に対しては、表情や言動により把握するようにし、またご家族からも情報を得るようにしている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居相談時や入居時に生活歴を聞いている。入居後も生活の中で情報収集していくように努めている。</p>		

25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日常生活のすべての動作や様々な家事作業などから、心身の状態に応じて、できることを見極めるようにしている。</p>		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>その人らしく暮らせるように、ご本人やご家族の意向を聞き、計画作成担当者、介護職員が話し合い、計画作成を行っている。また、退院後などの状態の変化に応じて見直しもしている。毎日ケア提供状況を表に記録し、月ごとにモニタリングを行い、次の介護計画に反映させている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護計画に基づいて日々のケアを実践し、その結果や気づきを記録し、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>月2回の往診を提供できる体制を取っている。また、ご家族の事情に応じて通院介助や買い物の付き添い、自宅への外出の援助など柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>小学校の協力を得て運動会を見学したり、地元の美容室、理容店に訪問美容、訪問理容として来てもらったり、行事の時にはボランティアに協力してもらったりしている。民生委員や町内住民の方より、地域の情報を提供してもらっている。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前のかかりつけ医や希望する医療機関を利用してもらっている。月2回の往診も受けられるようになっており、また協力医療機関への受診の支援もしている。</p>		

31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>往診を受けている方には、協力医療機関の看護師が健康状態に応じて速やかな支援を行なっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には病院に情報提供している。また、病院の看護師、相談員との情報交換を行い、早期退院に向けて相談している。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重症化した場合や看取りについての説明をし、入居後は身体状況の変化に応じ、ご家族と話し合うようにしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応については内部、外部研修にて学習している。平成26年6月には普通救命講習を全職員が受講した。また緊急対応マニュアルを作成し、全職員に周知徹底している。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを作成し、消防の協力により実施する消防訓練や、自主的な防災訓練を実施している。地域の協力体制については町内住民の方々に協力を呼びかけている。市の総合防災訓練に地域の方々と共に参加している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者それぞれに合った声かけや対応によって、安心して生活できるよう配慮している。法人内の勉強会で定期的に学習し、また接遇に関する職場内研修を随時実施している。</p>		

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>ご本人の思いや希望を把握し、生活の中で自分で決定できる場面を持てるようにしている。入居者一人ひとりに合わせた言葉がけをし、選択肢を示し、意思表示しやすいように心がけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々の生活の中で入居者のペースを把握し、その方のペースを大切にし、また希望に添えるように個別対応をしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>自分で身だしなみが整えられるように見守りし、行事や外出時はお化粧を楽しんでもらう等の支援をしている。訪問美容にも来てもらっている。</p>		
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一人一人の好みを取り入れるように努め、会話の中で浮かんだ思い出の食材を使ったり、食欲が増すように支援している。調理はできる範囲で参加してもらっている。職員や入居者様同士と一緒に楽しく食事できるように席の配置に配慮し、また後片付けやテーブル拭きなどをしてもらい、手伝ってもらった時は感謝の言葉を伝えている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>体調や義歯の状態により、食物の形態を考慮している。咀嚼、嚥下状態の悪い方にはミキサー食等に対応している。水分は1日に標準で1,300～1,500ml摂れるように気をつけ、食事、水分の摂取量を毎食記録している。また、関連施設の管理栄養士に指導を受けることもある。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄は、一人一人の力に応じて見守りや介助を行っている。</p>		
43	(16)	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>リハビリパンツや尿取りパッドを使用しているも、一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導も個々の状況に合わせて行い、またリハビリパンツから布パンツへの移行など自立に向けた支援をしている。</p>		

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>散歩や体操で活動量を高めたり、食物繊維の多い物やヨーグルトの提供や、適正な水分摂取で便秘予防に取り組んでいる。</p>		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>一人一人の要望に合わせて入浴してもらっている。入浴剤を使用したり、季節により「ゆず湯」などを楽しんでもらっている。足浴も随時行なっている。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人一人の状態に合わせ、昼寝の時間を取ったりしている。また、日中は体操や外出、レクリエーションなどで活動的に過ごし、夜間安眠できるように配慮している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員全員が薬の説明書をいつでも閲覧し、確認できるようにしている。薬の変更時には、その都度情報を更新している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>能力に応じて家事の分担をしてもらい、また花の手入れをしたり、庭仕事をしてもらうなど、個々に応じた張り合いのある生活になるよう配慮している。散歩やドライブを行い、気分転換ができるように努めている。</p>		
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩やドライブ、買い物、自宅や自宅近くの馴染みの場所、町内の町民集会所等、希望に応じて外出している。状況に合わせて複数で外出したり、個別に外出したりしている。</p>		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>預かり金制度があり、ご家族の同意を得て管理している。ご本人の希望時は自由に使えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望時にはご家族やご親戚の方、また知人の方などと電話で話せるように支援している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>庭に花を植えたり、玄関やホールには季節の風物の飾り付けをしたり、生活に潤いを与える生花や置物などを飾るようにしている。室内の照明に配慮し、居心地良く過ごせる空間作りをしている。館内には木を多用し、装飾をベージュ色に統一し、落ち着いた環境を提供している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールの隅にソファや椅子を置いて、一人で過ごせるようにしたり、また気の合った方同士が過ごせるようにも配慮している。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具、机や椅子、家族の写真や装飾品等を持って来ていただき、居室内を違和感のないように工夫し、安心して過ごせるように努めている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレには「ここはトイレです」と大きな張り紙をしたり、居室入り口には表札をつける等工夫し、認知力、理解力に応じた対応をしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)						
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○			2. 家族の2/3くらいと	
					3. 家族の1/3くらいと	
					4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
					2. 数日に1回程度	
					3. たまに	
					4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
					2. 少しずつ増えている	
					○	3. あまり増えていない
					4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
					○	2. 職員の2/3くらいが
						3. 職員の1/3くらいが
						4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
					○	2. 利用者の2/3くらいが
						3. 利用者の1/3くらいが
						4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
					○	2. 家族等の2/3くらいが
						3. 家族等の1/3くらいが
						4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○				1. ほぼ全ての利用者が
						2. 利用者の2/3くらいが
						3. 利用者の1/3くらいが
						4. ほとんどいない